

ニュースで耳にする環境「ワード」。
 明日への行動につなげてみよう。

問 環境政策課 / Tel674-7486

問題 「IPCC第6次報告書」では、
 温暖化と人間活動の関係についてどのように
 表現されたでしょうか。

- A 気温上昇を生じさせるだろう
- B 可能性が高い
- C 疑う余地がない

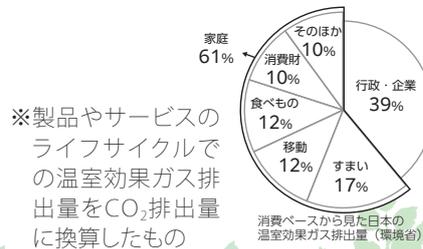
答え C 疑う余地がない

解説

IPCC(気候変動に関する政府間
 パネル)では、人為起源の気候変化
 や影響、対策に関し、科学的・技術
 的な見地から評価を行い報告書を
 公表しています。第6次報告書(2021
 年)は、人為的な温暖化が、紛れも
 ない事実だと断言するに至りました。
 ちなみにAは第1次(1990年)、B
 は第3次(2001年)の表現です。

CO₂排出の6割が家庭から

私たちの衣食住など生活の中で
 排出するカーボンフットプリント※
 は全体の約6割を占めています。



一人一人にできること

待ったなしの地球温暖化。温
 室効果ガスの削減のためには、
 私たちが生活の中で、工夫
 をしながら、無駄をなくし、環
 境負荷の低い製品・サービス
 を選択することが大切です。で
 きることから、地球にやさしい
 ライフスタイルに取り組んで
 みませんか。

高槻城を追われた和田惟長

たかつき歴史アラカルト 91

前回取り上げた和田惟政の息子、
 惟長(これなが)を紹介します。

惟長は幼名を「愛菊(あいぎく)」
 といいます。彼が18歳であった元龜2
 (1571)年8月、白井河原の戦い(茨
 木市)が起きました。この戦いで
 父・惟政が討ち死にして軍勢は四散
 し、惟長はわずかな兵と共に高槻城
 へと敗走しました。その後、高槻城は
 敵勢に囲まれましたが、なんとか守り
 切りました。

父に代わり高槻城主となった惟長
 は、同年12月に神峯山寺(原)へ寺
 領の安堵状を、翌年2月には本山寺
 (同)へ安全を保障する文書を与え
 ており、新たな領主として活動する
 様子がうかがえます。

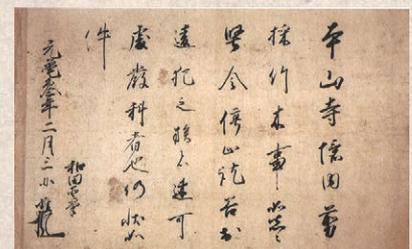
しかし、若い惟長は家中をまとめる
 ことができませんでした。イエズス会
 の宣教師によれば、惟長は一族の有
 力者であった叔父を殺してしまいま
 す。一方、配下の高山飛騨守・右近
 父子が惟長をしのぐ実力をつけてき
 ました。

そして元龜4年3月、高槻城で争
 いが起り、高山父子が惟長を追放
 しました。この時、惟長と右近は互い
 に切り付けあい、敵味方入り乱れた
 乱戦の中、双方が瀕死の重傷を負
 いました。敗北を悟った惟長は家族
 やわずかな家臣と共に高槻城を退
 去し、伏見へと逃れましたが、そこ
 で亡くなったと宣教師は記しています。
 なお、惟長の子孫と称する徳川幕府

旗本の和田家の系図には、生き延び
 て豊臣秀吉、さらに徳川家康に仕え
 たとあります。

父の死後、高槻城の落城の危機
 を乗り切った惟長でしたが、城主であ
 ったのは2年に満たない短い期間で
 した。

(しろあと歴史館)



惟長が本山寺へ与えた文書(本山寺蔵)